

特別寄稿

SAJ指導者制度80周年を振り返る

元SAJ教育本部長

長野県丸山庄司氏



丸山庄司氏

(公財)全日本スキー連盟(SAJ)が、「スキー指導者制度」を制定し、日本初の指導者を誕生させたのが1939年である。今シーズンは「80周年」の大きな節目を迎えることになる。

記念すべき年になるという事で、藤島会長の勧めでここに、SAJのスキー普及活動とスキー指導者制度の歩みをたどることとした。

1939年(昭和14年)1月1日に、SAJが「一般スキー術要項」を発刊した。後に「SAJスキー教程」の名称の時代を経て、現在の「日本スキー教程」のことである。

私の手元に、その「一般スキー術要項」があるが、ページを開くとSAJ小島三郎会長は挨拶文の中で次のように述べている。

「企画を抱いてより茲に数年、其間編纂委員諸君が会合して疑義すること幾十回、漸くにして一先完成を見た。・・・終わりに従来より幾多の指導書を著し吾等と共に、邦土のスキー進歩に多大の貢献を賜りたる先輩各位に深甚なる謝意を表し・・・」と述べている。

内容は、「用具と服装、初心者のための技術、熟達者のための技術、山地滑降法、塗蠟術、スキー医事」に編集され、178頁、定価50銭とある。

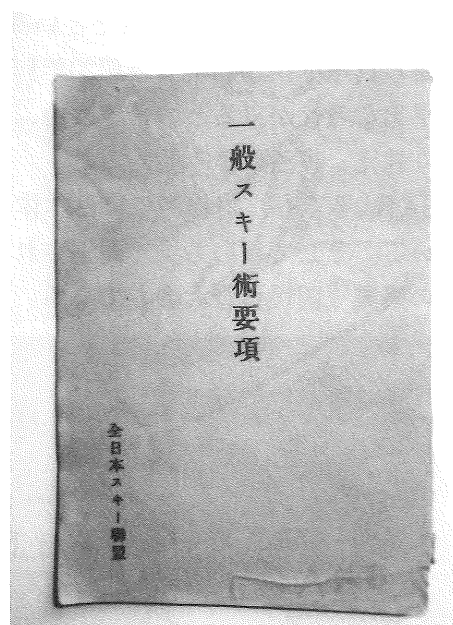
1939年12月21日から3日間の日程で、山形県・五色温泉において、第1回スキー指導者検定会が実施され、2回目はそのシーズン終わりの3月に、長野県・野沢温泉で実施された。今から80年前のことである。

当時のスキー年鑑を開くと、SAJの技術委員長でその時の検定会責任者でもあった高橋次郎さんの報告書がある。長文なので一部のみを抜粋するが、新しいことを始めるにあたっての決意と努力、そして期待が、ひしひしと伝わってくる内容である。

以下抜粋、指導者出でよ・・・

「永い間スキー競技の方面のみに主力を注ぎ、登山その他一般スキー術の方面に直接寄与する機会をつかみ得なかった吾が全日本スキー連盟も、昨年以来漸く一般的スキー術の方面にも直接に働きかけることができるようになった。

その事業の一つの表れとして「指導者講習会」が、今シーズンの始めに山形県五色温泉において、また、シーズンの終わりには長野県野沢温泉において断行せられた。手不足の連盟に



一般スキー術要項

としては大事業であったが、幸いにして技術委員諸氏及び地元のスキー関係者の熱心なる支持によって、無事に終了することを得たのは、我が国のスキー界の前途のために欣快に絶えないところである。
(・・・中略・・・)

今、ここに我々は吾が国スキー界の発展し行く輝かしい前途を展望しつつ、且つ諸君の健康を祈りつつ、意義あるスキー指導者講習会を閉じる。 シーハイル」

「一般スキー術要項」の発刊まで5年の歳月を要したというから、数年間の準備期間を経ての・・・日本初のスキー指導者誕生・・・となった事になる。

その時の合格者で、私のスキーの先輩でもある平林 堅さん（長野県）は、当時のことを次のように話してくれた。出版されたばかりの「一般スキー術要項」を基に、各地で技術講習検定会が行われ、その1級合格者と都道府県連からの推薦者が、翌シーズンの「指導者検定会」に参加した。また、技術検定は1・2級の2段階のみであったという。

検定会の五色会場受講者は64名、うち合格者10名であったが、この講習会の助手を務めた北海道の柴田信一さんが認定され、11名となった。

柴田さんは後にSAJ理事、教育部長も務められ、重鎮として活躍された方である。

第2回講習検定会の野沢温泉会場は、受講者47名中、合格者12名で、その中には後に活躍された三浦敬三、丹内正一、藤巻文司、馬場忠三郎さんの名前がある。

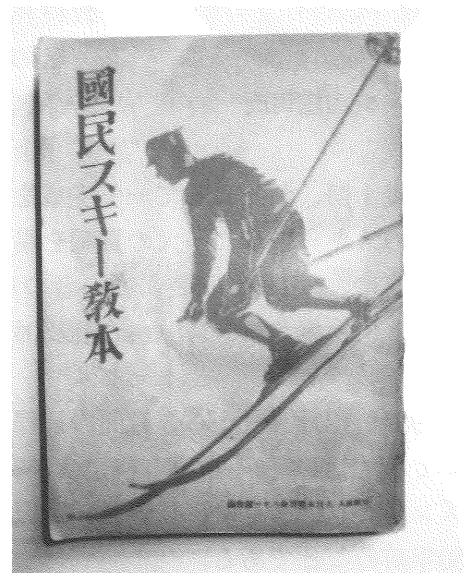
1941年（昭和16年）12月、日本は太平洋戦争に突入した。

1945年（昭和20年）8月の終戦までの前後、約5年間余は、全てのスポーツの活動が空白となる暗黒の時代を経験する。

この非常事態の中で、スポーツも「統制」され、SAJをはじめ全てのスポーツ団体は、大日本体育会に強制統合され活動を規制された。

その状況の中でも、大日本体育会のスキー関係者は「国民スキー教本」、現在の「日本スキー教程」を、1942年（昭和17年）に発刊している。スキーは戦争目的にも必要とされ、他のスポーツに比較し、優遇された方だという。（斥候競走などに採用された写真左下）1945年（昭和20年）8月終戦となり、これからは平和な時代が来るとの希望の中、日本のスポーツ界も困難を乗り越え、復活に歩み始める。

SAJは早くも、昭和20年に日本体育協会から独立し、復活している。そして、いち早く開催されたのが、現在も続くスポーツの祭典「国民体育大会」である。



国民スキー教本



しかし、「国民体育大会・スキー競技会」は、終戦から3年後の昭和23年、長野県野沢温泉で開催されたのが最初である。輸送事情が悪く、対応できないのが理由であった。

1950年（昭和25年）終戦から5年後の社会の動静を新聞記事で見ると、「朝鮮動乱で日本は、特需景気。金へん、糸へんをあおる」などとある。その頃から、世の中の景気は上向きとなり、社会環境の変遷の中